

海老名市立東柏ヶ谷小学校 学校運営協議会 議事録
(令和7年度 第1回)

- 1 日時 令和7年4月22日(月) 13:15～
- 2 場所 海老名市立東柏ヶ谷小学校 ランチルーム
- 3 出席委員 芳賀敬子委員長、橋本絵美里副委員長、植木由美子委員、海野望委員、佐藤充明副委員長、柳下泰介委員、長井徹委員、小池一美委員、逢地和孝委員、瀬戸口壮委員、工藤真委員、青山広文委員、守谷美子委員、増田英樹委員、高橋典嗣委員

4 会議の内容

(1) はじめに

芳賀委員長：今年度も委員長を務めさせていただく。昨年度は50周年記念事業で多くの委員の皆様にお力をいただき、無事に終了した。今年度も引き続き、お力を貸していただきたい。よろしくお願いいたします。

(2) 授業見学

出席委員並びに本校教職員を3グループに分け、授業見学を実施

(3) 学校長より

奥田校長：(欠席のため、動画メッセージ入りのスライドにより説明)

・令和7年度 グランドデザインについて

今年度は、1年生が66名入学し、全校児童、391名でスタートした。学校経営の中心に、「対話」を据えた。「子ども同士の対話」、「子どもと教職員との対話」、「子どもと家族や地域のみなさまとの対話」、「教職員と保護者や地域のみなさまとの対話」など、対話をとおして、関係を深め、つながりを強めていきたい。

スローガンの一つ目は、50周年のスローガンを継続して、「笑顔あふれる明るい学校」。めざす学校の姿として、まずは「一人ひとりを大切にする学校」。多様な子どもたち一人ひとりを包み込み、大切にする学校をめざしていきたい。また、「知・徳・体」の視点で整理し、「知恵いっぱい、やさしさいっぱい、元気いっぱいの学校」をめざしていきたい。

スローガンの二つ目は、長く子どもたちに親しんでいる「やさしいところをひろげよう」。やさしい心を中心に、育てたい子どもの姿として、「知・徳・体」に整理し、学び合う子、支え合う子、高め合う子とした。支える教師の姿として、キーワードを「寄り添う」と

して、「思いに寄り添い、一人ひとりを大切に作る教師」とし、「あたたかく丁寧に根気強く」寄り添うことを大切にしていきたい。
スローガンの三つ目は、「地域に愛着をもち、主体的に行動できる児童」。家庭・地域とのつながりを深めていくために、顔の見える関係の構築を進め、地域とともにある学校をつくっていききたい。
本校では、4つのグループをつくり、学校経営を行っている。
教育課程の編成や地域連携を担当するグループでは、「あいさつの励行と感謝の気持ちの醸成」に重点をおきたい。
授業研究や道徳教育、ICT教育などを担当するグループでは、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に重点をおきたい。
学級経営や登校支援などを担当するグループでは、「誰一人取り残さない学びの場」づくりに重点をおきたい。今年度、新たな取組として、4年生以上の担任の先生方が、毎週1時間、自分のクラスを他の先生が指導している時間に、たんぽぽ級をはじめ、他の学年・クラスに行き、指導・支援にあたる「インクルタイム」を始めた。
この取組をとおして、全職員で全児童を支え、育てていきたい。
安全な環境整備や健康教育などを担当するグループでは、「心と体の健康促進」に重点をおきたい。今年度も新体力テスト大会や運動会に向けた準備等でもお世話になります。
どうぞよろしくお願いいたします。

委員の皆様へ承認していただいた。

(4) 地域連携の1年間の予定について

・育てたい子ども像（目標）について

佐々木教諭：グランドデザインに記載しているとおおり。具体的には、昨年度から引き続き、あいさつ運動、ビブスデイを展開していく。

・「社会に開かれた教育課程」について

佐々木教諭：1年生から6年生までが地域とどのように関わることができるかを見ることができるようになっている。

(5) 今年度の校内研究について

小久保総括教諭：昨年度は「ものがたり文のめがね」を活用してきた。物語の全体を読むことを意識した。アンケート結果から、物語文に前向きに取り組んでいる児童が多いことが分かった。自分の考えをもつことを意識づけた。友だちの考えを聞くことが好きだと答えた児童も多かった。友だちの意見を「いただきます」する。(元筑波大学附属小学校現淑徳大学 総合福祉学部 教育福祉学科 教授 青山由紀先生より)
今年度も引き続き、指導をしていく。

芳賀委員長：「物語文のめがね」視点がはっきりして良い。

高橋委員：学年の変化率、昨年度と今年度のデータも見られると良い。教職員のアンケートでは、パーセントではなく、平均値で出した方が良い。

佐々木教諭：物語文は学年によって、学習する機会が異なるため、実施のタイミングが難しいのではないかと。

(6) 年間予定について

山形総括教諭：運動会の時期変更、学習発表会の内容変更を含め、説明。

町田教頭：年度始めに実施した授業参観後の保護者会は、学年懇談会で行った。顔の見える関係を築いていくため。2回目以降の保護者会は、学級ごとで実施する。

逢地委員：9月7日に行われる避難所開設訓練について、体育館工事の影響は大丈夫か。

町田教頭：具体的なことはまだ分かっていないが、情報を追っていく。体育館が使えないのは、夏休みから2月の半ばを予定。

(7) 新体力テスト大会について

佐々木教諭：概要を説明。雨天決行で実施。(ソフトボール投げのみ別日で実施)縦割り活動の意義を考えるよう、高学年に指導していく。

橋本委員：学校からボランティアの依頼が45名となっている。保護者のボランティアの人数によっては、学校応援団からの派遣人数を調整する必要がある。

海野委員：PTAサポート隊への声掛けや周知をお願いする。

(8) 東柏ヶ谷小学校区親子パトロール報告について

柳下委員：あいさつ運動ののぼりとビブスと感謝状と記念品を作成した。

あいさつ運動ののぼりは、正門近くに3本、掲げている。

感謝状と記念品は、パトロールに多く参加されている方や立哨ボランティアの方等、20名近くの方へ贈呈した。

来年度も新入生にビブスを配付予定である。

町田教頭：あいさつ運動時にも児童へビブスを着用するなど、工夫したい。

柳下委員：交番(警察の方)とのパトロールでの交流がある可能性もある。

(9) 教職員の紹介

町田教頭：離任者の紹介

出席している教職員のほか、低学年担当の教職員による自己紹介

(10) その他

- ・年度始めのスクールサポートスタッフについて（教頭）

町田教頭：働き方改革、教員の負担軽減に基づき、教員の業務支援を図り、教員が一層児童生徒への指導や教材研究等に注力できる体制を整備することを目的に配置している。現在は、1名（週2日）を配置している。さらに年度初めの繁忙期は、学習支援ボランティアの大学生や補助指導員、スペシャルサポートルーム支援員を期間限定で任用した。

- ・年度始めの学習支援ボランティアについて（教頭、橋本）

町田教頭：昨年度着任して、低学年1学級35名に近い学級をしている教職員の様子を見て、できる支援がないか模索していた。校内で協議し、「地域の力を借りることができないか」を考え、地域コーディネーターの橋本委員へ昨年度末に相談したことが始まりである。今年度始めから、低学年を中心に各学級に入っていただき、支援していただいている。担任は、ボランティアの方が入っていただくことで、複数の目で児童へ接することができ、安心して指導に専念できている。学校として、とても感謝している。

橋本委員：低学年はその日に来られる人が来て、分担している。6年生が来てくれた時、どう動いたら良いかわからない6年生が見られる。そのため、上級生にも、1年生に支援してあげられるような手立てが必要あるのかもしれない。

芳賀委員長：たくさんの手があるのは、良いことであり、応援団の方を中心とした協力があり、助かっている。

- ・令和7年度海老名市コミュニティ・スクール研修会兼中学校区学校運営協議会（教頭）

町田教頭：10月6日（月）14時30分から 海老名市役所 401 会議室で実施。

7月25日（金）までに市教委へ参加者の報告をする。

- ・生涯学習指導者研修（県教委）「学校と地域との協働推進コース」（教頭）

町田教頭：参加の希望がありましたら、教頭まで。

(11) おわりに（学校運営協議会副委員長）

佐藤委員：学校を見て回ることができ、子どもの様子を見ることでよかった。